社会福祉法人
名東福祉会
機関誌ワークス

WORKS

Empower&Energize

No106
2007/08

名東福祉会は名古屋市と日進市を中心に
知的障害者を中心とする福祉活動を行っています

楽しい施設ライフ

理事長　加藤久和

「正の強化」で利用者のクオリティ・オブ・ライフ向上をめざそう

障害者自立支援法で日中生活の場と生活の場が分離しました。今は施設の建物は昔のような規制はありません。国庫補助金を使って建物を建てるのではなく、町の店舗や民家を利用して地域の中の資源を利用していくことができます。でも、どうせやるなら楽しくやりたい。こんな時代だからこそいろんな人たちを巻き込んで、毎日を楽しく明るく過ごすことが大切だと思います。楽しく活動できる場を増やしていくことがこれからの日中活動の場作りのポイントとなると思います。

「楽しさが増すこと」は、支援技術の世界では「正の強化で維持される行動の機会を増やす」ことと考えます。行動には3つの側面があります。

A先行事象→B行動→C後続事象

CがBに続いて起こるとBがだんだん増えていく。これが正の強化です。

施設の中に、「正の強化で維持される行動の機会」をふんだんに設け、増やしていくことが支援の目標です。別のいいかたをすると「罰によるコントロールがない施設ライフ」をどうやってつくっていくかです。

「楽しさ」とはやや趣を異にしますが就労継続支援や移行支援についても報酬という正の強化があります。いずれにしても利用者も職員も、罰をさけるためにその活動に参加するのではなく、それをしたいからやる。楽しいからやる。そういう機会をいたるところに設け、そのなかから活動を利用者に選んでいただく。これが楽しい施設ライフです。そうした施設環境の生活は自由も感じることができます。

特定の利用者は楽しいんだけれど、まわりにいる利用者は迷惑千万では困ります。いわゆる問題行動ですが、問題行動についても正の強化で維持される望ましい行動を増やすことによって問題行動を減らすことができます。施設ライフを利用者も施設職員もみんながエンジョイできる活動・・それが楽しい施設ライフであり「正の強化で維持される施設環境」です。

「わいがや」で楽しい日中活動を

先日、チェコ料理店のメイグリーンをどのように活用するかについて話し合いがもたれました。支援スタッフが集まって「わいわいがやがや」となったそうです。たまたま立ち寄ったケーキ教室を主宰している家族会のメンバーも加わって、いろいろと楽しい企画が検討されました。パン屋さん、ケーキ屋さん、ボランティアの集会所や行動療法の研修会場など多彩なアイディアが出ているとのこと。知的障害者のための魅力ある日中活動拠点として大いに期待されます。

現在、日本の各地でこうした「楽しい」企画が進んでいます。京都市伏見区の知的障害者通所授産施設「ぐんぐんハウス」では冷やした焼きいものスウィーツを販売しています。焼き芋づくりは14人の利用者が担当。材料のサツマイモを水洗い、塩水に浸し、グリルで焼き上げ1本150円。注文を受けて届けたり総合支援学校に販売しているそうです。

埼玉県の身体障害者地域デイケア施設「工房森のこかげ」では手作りのパンの販売を始めています。老人センター、JAが協力して特産のコマツナを練りこんだ小松菜食パンやクルミ食パンなどを販売。人気は「こまちゃんゴマあんぱん」（120円）で黒ゴマあんにクルミ入りだそうです。

長崎県の社会福祉法人「時津町手をつなぐ育成会」（山内俊一理事長）が経営する障害者多機能型事業所「エリア21」ではレストランのほか、作業所や農園でも研修を積み、実社会での就

業を目指しています。レストランの営業は午前11時から。手作りの和食料理（1200円と2000円の2種類）や子ども向け（650円）の料理を日に30～35食用意しています。飲食店経営は難しいのですが、自分たちがもっている資源をうまく活用し運営に生かしているようです。

障害者自立支援法時代を迎え、これからの施設づくりはこれまでとは違うノウハウが必要になってきます。

人材難や財政難があります。こうした時代を乗り切るためには魅力ある「場」づくりが必須でしょう。多くの協力者を必要としています。できるだけ楽しい活動を展開し、協力者を得ながら地域活動を展開していくことが私たちに与えられた課題です。

奈々枝日記

6月26日は麦の会の一年に一度の例会がありました。麦の会とは重度重症の子どもを持つ親の会です。結成されてから50年ほど経過し、ご主人を亡くされた人、障害の子が亡くなってしまった人などいろいろと変化がありました。みなさんの近況報告から障害者自立支援法の成立により、愛知県コロニーの今後について議論が沸騰しました。

「50年間苦労してきて、最期まで看てよ」と声を荒げる人もいれば

「いろいろ考えると、今後は名東福祉会に頼りたい」という発言もでます。

「親が亡くなった後も我が子が地域の中で楽しく暮らしていく様を垣間見てから死にたいね」という発言もあります。

振り返ってみれば、私は麦の会の友達と知的障害者が少しでも楽しく生きていけることを夢見てこれまで生きてきました。名東福祉会に対してたいへん大きな期待を寄せられる声をお伺いし、ずしりと責任を感じた一日でした。

我が子が障害を持つようになり、自分を責めて責めて責めぬいた時期、
悔し涙に明け暮れた日々
障害があることをあきらめはじめた日々
麦の会の人たちと出会い、自分だけではないことを知り安堵した日々
同じように悲しみをもった人たちのために役立ちたいと思い始めた日々
福祉行政を進めるために役所の人たちといっしょに懸命に制度をつくろうとした日々
困難を与えられたことがかえって幸せに思えるようになった日々

思えば前に進んだと思えば、あとにもどったりです。麦の会の人たちはそうした私の思いとまったく同じような心情でいっしょに過ごしてきました。この友人とともに歩めたことを深く感謝しています。

＊＊＊

昭和42～3年ころの話だったと思います。この頃の親の願いは知的障害があっても学校教育を受けられること。養護学校義務化の法案が通り、名古屋ではすでに多くの特殊学級ができていました。せっかく通えるようになった学校ですが、特殊学級は学校の中で孤立しているというのが親たちの間で大きな問題になっていました。孤立しているのは生徒たちだけではなく、先生も親も孤立していて、ほとんど交流はなかったのが実情です。

それでも非常にユニークな「名物」の特殊学級担任がたくさんいらっしゃいました。学校での特殊教育が楽しく実りあるものになるためには他の生徒さんたちとの交流が非常に大切であることを、その当時から特殊学校の担任の先生たちはご存知であったのです。反面、特殊学級に配属されたことを非常に落胆され、どう手をつけていいのか考えあぐねている先生たちも多くいらっしゃました。

名古屋手をつなぐ育成会の事務局長をしていた関係で、特殊学級に在籍している親から相談を受けたことがあります。「PTAの役員になって特殊学級の先生たちを孤立させないようにしたり、生徒を暖かく迎える雰囲気作りを特殊学級の親たちが率先してやってほしいのです」と切り出しました。

「でも、学校では特殊学級の親はPTAに入っていません。だから役員にはなれません。」

「校長先生と話をするような機会はありません。」

そんな答えが返ってきました。どんなに自分の子どもが悪いことでもすぐに校長先生に怒鳴り込む今の時代とは全く違っていました。

特殊学級の担任がおかれている厳しい孤立感や疎外感、親たちが感じている悩みをいろいろな人々にお伝えしているうちに、私は名古屋市の教育長とお話をすることになり、結局、学校校長会で特殊学級の実情を話す羽目になりました。

その後、知恵遅れの人たちをなんとかしなければならないという雰囲気が生まれ、「ちえの友鉛筆」という鉛筆の共同購入運動を学校を通してやっていただけることになり、手をつなぐ育成会の収益となり、その後の障害者授産施設建設のためにたいへんありがたい結果となりました。ただ、ちえの友鉛筆の運動は特殊学級担任自身の反対者もあり、知的障害がある子どもたちが支え合って健やかに生きていくという目的には遙かに遠い道でした。

小島一郎の支援センター日記

学齢児の親の会の学習会に参加してきた。このグループは、丁度1年前から数えて、3回目。それこそ、自立支援法の施行とともに初めてお招きを受け、10月の事業移行開始とともに2回目参加、そして、1年経って3回目である。

随分顔も覚えたつもりで、「リラックスして話せるようになりました」と調子にのって制度説明を始めたのはいいのだが、一段落してフリートークっぽくなって、やたら詳細事情に詳しい人（唯一の男性）がいるな～と思っていたら、勉強熱心というヘルパー事業所の方。窓口となっているお母さんも、「本人が参加したいということで呼んじゃいました。最初から伝えると、小島さんがやりにくいかと思って・・・」とのお言葉。どうもカラーの違う、見慣れない男性がいるなと、最初から少し思っていたのだが、やっぱり、という感じ。自分自身も、事業所の方ならではのお話を聞くことができて勉強になったのだが、「リラックスして・・・」と始めた結末がこれ。世の中、恐ろしいものである。

学習会が終了し、皆さんは机の片付け、私はノートPCをバッグにしまっていると、あるお母さんが、「そう言えば、小島さんって名東福祉会の方よね。私、児童療育C利用してます。久野先生にも・・・」とのこと。「こちらこそ、お世話になっております。」と挨拶していると、前述の男性が、「久野先生、日進にいるんだ。中京大学にみえましたよね。久野ゼミは・・・」と続ける。

何と言うか、久野先生のネームバリューを垣間見させてもらった気もしたが、一方で、名東福祉会のウイングも広がってきたなとも思った。従来は、各施設を直接利用している人たちの法人というイメージであったのが、こういう外部の集まりでも法人利用者が声をかけてくれる。こんなことが、これからもチョコチョコあるかもしれない。

＊＊＊

支援Cでは、月に数回程度のペースでサービス調整会議に関わる。「関わる」というのは、こちらが開催したり、逆に参加を依頼されたりするという意味で、いずれにしても、その利用者の支援に関わる、地域の様々な機関・事業所の方々と話し合いをもつ。従来の施設だと、会議＝施設内の職員の話し合いが主であったが、常に外部との関わりで仕事をするのが支援Cの特徴であると言える。

一方の施設自体も、地域のネットワークの一員として、このような外部との会議が増える傾向にあるはずであるのだが、残念なことに、ときどき調整会議の参加を断られるケースがある。断るのは99%施設。たまに居宅系の事業所が不参加の場合もあるが、「どうしても都合がつかない」というのが理由。それに対して、施設は「ウチの施設では問題なく利用してもらっている。困っているのは、家庭内の問題なのだから、家庭に関わっている人たちだけで話し合えばよい」と言う。

障害をもった方々の生活問題を対象に仕事をしている以上、本来切れ目のないはずの生活を、日中とそれ以外で区別するのは、ナンセンスであろう。福祉のネットワーク化という流れから考えても、このような発想は、その施設の存在価値さえ揺るがせかねない致命的な誤りと言える。

自立支援法による経営的な展望の厳しさから、ともすると法人単位や施設単位で囲い込み状況に陥りやすいのであろうが、実際は逆である。自己完結的な発想から、生き残る道など生まれはしない。

しかし、地域資源が選べるほどないという現実がある以上、自己完結的な施設にも頭を下げて、利用者との契約をお願いしなければならないのが、支援Cの現実でもある。トホホ・・・

＊＊＊

今日、区の担当者と自立支援協議会の部会参加依頼のため、区内のとある小学校の校長先生を訪ねた。こちらの希望は、障害をもった学齢児の問題をテーマにした部会にご参加いただき、特別支援教育の説明や、学校と地域資源の連携についての話し合いに加わっていただこうというもの。校長室に通され、これまでの協議会の歩みや、依頼内容についてお話させていただいた。

二男が小学生なので、保健室には常に児童が何人もいるのがいまどきの小学校であるのは知っていたが、ここは校長室で過ごす児童もいる。我々の話が終わり、突然の豪雨が収まるまで待たせていただいている間に、低学年と思しき男の子が、いつの間にか校長室の来客用のソファに座って、ペーパークラフトを作り始めていた。我々が廊下に出て、雨の状況を確認していると、一緒に出てきて「給食、ちゃんととどくかな」などと言っている。どうも不登校状態から、クラスには行けないけど校長室で自由に過ごせるなら何とか登校できるという子らしい。ポツポツ話すのを聞いていると、口調は妙に

大人びていて、それが現在のこの子の置かれた状況に似つかわしくないような、いや逆に似つかわしいような、複雑な気持ちになったのが印象的であった。

特別支援教育は、障害をもった児童ひとりひとりのニーズに合わせた対応をしていこうという理念を掲げているが、校長先生のお話では、それはもう、全ての児童に当てはまるとのこと。「昔のように、集団を指導するという発想は、今の学校では通用しない」と言い切っておられた。教室に入れない児童を校長室で受け止めている先生ならではの、説得力を感じた。肝心の依頼の方は、「私、話すのが下手なんです」「もっと他に適任の方がみえると思います」と静かにおっしゃっていたが、「ひとりひとりに焦点を当てたお話から、学校と福祉サービスが連携するイメージを持てるような会議にしたい」「それには、先生こそが適任なんです」とすがって、何とかお引き受けいただいた次第である。

支援Cに届く、学校教育に関する苦情を聞いている限り、目指すところは容易ではないが、今回の部会が、区内の教育と福祉のネットワーク形成の第一歩（のきっかけ？）になれば幸いである。

名東福祉会のホームページへどうぞ

名東福祉会では福祉情報を満載したホームページを運営しています。

ホームページアドレス　http://www.meito.or.jp
検索サイトから「名東福祉会」でヒットします。
最新の厚生労働省情報や専門的な支援技術方法など
多様な情報を掲載しています。

名東福祉会は賛助会員を募集しています
名東福祉会の活動にご賛同いただき、
多くの方々にご入会いただきますよう
よろしくお願いいたします
賛助会員　１口３０００円（年間）

●社会福祉法人　名東福祉会
〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納 58-4
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004
●メイトウ・ワークス
〒465-0055　名古屋市名東区勢子坊 2-1303
TEL 052(702)2863 FAX 052(701)2079
●天白ワークス
〒468-0023 名古屋市天白区御前場町 327
TEL 052(804)5487 FAX 052(804)5416
●デイケア　はまなす
〒465-0054 名古屋市名東区高針台 1-911
TEL 052(704)7551 FAX 052(704)7552
●レジデンス日進・ハートフルアクト日進
〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納 58-4
TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004
●こいけホーム
〒465-0047 名古屋市名東区小池町 468-1
TEL 052(777)8385 FAX 052(777)8385
●天白ホーム
〒468-0021 名古屋市天白区平針字大根ヶ越 141-3
TEL 052(807)1578 FAX 052(807)1578
●児童行動療育センター「たけのこの家」
〒470-0124 愛知県日進市浅田町上の山 14 番3
TEL 052-800-2203　FAX 052-880-2204
●メイ・グリーン
〒470-0124　日進市浅田町平池112－3